

住宅
防火

いのちを守る
10のポイント

自助

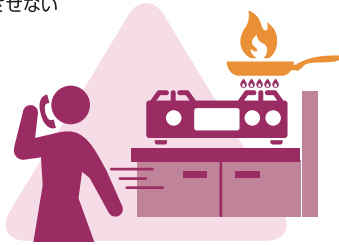
4つの習慣



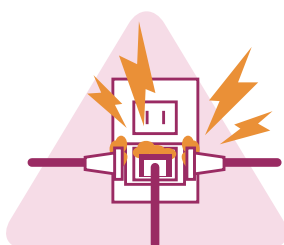
1 寝たばこは絶対にしない、させない



2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない

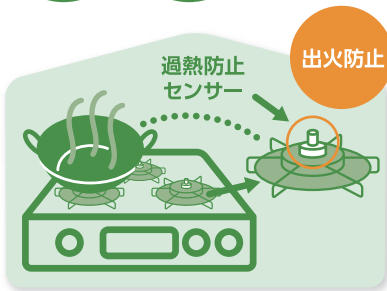


3 こんろを使うときは火のそばを離れない

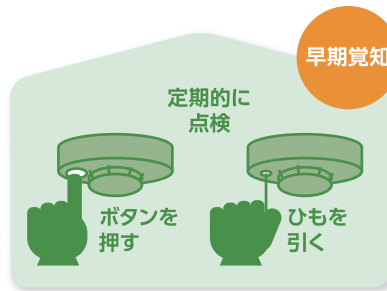


4 コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く

6つの対策



1 火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロなどは安全装置の付いた機器を使用する



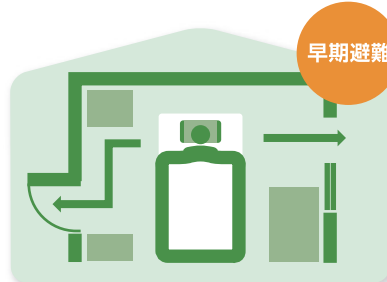
2 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する



3 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類およびカーテンは、防炎品を使用する



4 火災を小さいうちに消すために、消火器などを設置し、使い方を確認しておく



5 お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく



6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

私たちができること
「自助・共助・公助」による地域全体での取り組み

自分自身で身の安全を守る「自助」、町内などの地域の人たちと協力して助け合う「共助」、市町村や消防などの公的機関が救助支援を行う「公助」という考え方があります。私たちが今できることは、火災に備えて事前にできる準備をすることが大切ですが、一人でできることは限られています。万が一に備えて、日頃から地域の人たちとの会話や助け合いを大切にすることも重要ではないでしょうか。共助の例として、地域防災の中枢を担う消防団に所属する松本さん、公助の例として、高山消防署の直井さんのインタビューをご紹介します。